

令和 6 年度 自己選択学習ほか、授業に関する成果検証に関すること

以下に、児童を対象にした質問紙調査の結果を報告します。

表 小 3 から小 6 児童の情報活用能力に関する実態（R6 年度）

	R6. 7 肯定回答 % N=229	R7. 2 肯定回答 % N=225	p 値 N=208
Q1 学習内容について、自分の言葉で説明できるようにしている。	72. 5	77. 8	. 141
Q2 学習している内容は、簡単すぎず、難しすぎず、ちょうどいい。	65. 5	66. 2	. 690
Q3 学習した内容を覚えているか、自分で自分にテストをしている。	44. 1	47. 6	. 819
Q4 先生や友達から、できている点やできていない点について、アドバイスをもらうようにしている。	53. 7	58. 7	. 016*
Q5 同じ教科の学習ばかりするのではなく、交互に学習している。	69. 4	69. 3	. 246
Q6 聞く・読む・見るなど、色々な方法で覚えている。	79. 0	73. 3	. 091
Q7 楽しみながら学習をしている。	73. 4	76. 0	. 543
Q8 学習した内容どうしの関係を、図や表にまとめて覚える。	48. 5	44. 9	. 091
Q9 新しく学習する内容は、前に学習した内容とのつながりを考える。	59. 4	60. 5	. 949
Q10 学習するとき、分かりやすい内容から理解し、それから難しい内容を理解するようにしている。	74. 6	65. 3	. 081
Q11 学習するとき、自分なりに例を考えている。	67. 2	70. 7	. 499
Q12 学習するとき、「そもそも」や「なぜ」について考えるようにしている。	62. 0	68. 4	. 022*
Q13 学習内容の流れや全体像をふまえて、学習内容を覚えている。	62. 9	66. 6	. 400
Q14 短い時間で学習しようとせず、長い時間をかけて、学習した内容どうしを関係づけて覚えている。	48. 5	52. 0	. 955
Q15 学習した内容が、その教科の学習場面以外でも活用できるか考えている。	66. 8	67. 6	. 194
Q16 かたよった考え方をしていないか、自分の考えに意識を向けるようにしている。	65. 1	65. 3	. 354

【結果】

- 欠損を除く 208 名について、対応のある t 検定を行ったところ、第 4 項目と第 12 項目について 5%水準で統計的に有意な差があった。
- 2 回の調査について肯定回答の割合を比較すると、第 6 項目と第 8 項目と第 10 項目が減り、第 1 項目が増えた。

【考察】

- 統計的に明らかになったことは、自己選択学習をはじめ、日々の授業改善の成果と捉える。
- 肯定回答の割合が少なくなった項目は課題と捉え、自己選択学習をはじめ、日々の授業改善に生かす。